

<巻頭言>

国連の持続可能な開発目標 3 (SDG3)

—保健関連指標における日本の達成状況と今後の課題について—

児玉知子

国立保健医療科学院国際協力研究部

United Nations Sustainable Development Goal 3 (SDG 3) : Japan's progress and future challenges regarding health-related indicators

KODAMA Tomoko

Department of International Health and Collaboration, National Institute of Public Health

地球規模の保健課題は、近年、世界保健機関 (WHO) のみならず、国連総会や主要国際会合でもしばしば主要議題として扱われる等、国際社会においてその重要性が高まっている。ミレニアム開発目標の後継として2015年9月に採択された「持続可能な開発目標」(SDGs) では、開発国のみでなく先進国においても保健分野のゴールが設定され、国際的な取組が一層強化された。健康寿命において世界でトップクラスにある日本の国際的な貢献への国内外の期待は高く、政府による「健康・医療戦略」を始めとする方針・戦略においても、国際機関等との連携によるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) や健康安全保障の推進、健康・医療に関する国際展開の促進が謳われている。

SDG3「全ての人に健康と福祉を」の達成のためには、各国の保健医療の状況を統一的な指標で評価・モニタリングすることが重要であるが、異なる保健システムや調査統計実施上の差異、財政上の課題など困難も多い。一方で、急速に進むグローバリゼーションは、他国における保健課題がけして他人事ではないということを、新型コロナウイルス感染症の世界的流行で我々は再認識した。そして、健康危機は最も脆弱な人々に、より深刻な影響を与え得るということも忘れてはならない。

SDGsでは、MDGsで対象とされてきた母子保健、感染症領域に加えて非感染性疾患や精神保健・福祉、生活環境要因による健康影響、発展途上国や島嶼国などの資源が限られた国々への支援、災害を含む健康危機管理の視点が加えられていることにも注目されたい。

本特集号では、国際的なSDG3モニタリング状況と国内におけるSDG3指標の意義について概説するとともに、各個別領域における日本の達成状況の評価、今後検討すべき課題について、具体的には、UHCの達成、生涯を通じた健康の確保 (母子保健や高齢化)、感染症対策 (HIV/エイズ)、非感染性疾患の予防と治療、薬物乱用の予防と治療、人体に有害な環境 (化学物質、空気、水、土壌) の改善等に関する指標に関して、各専門家に概説頂いた。

本特集号により、多くの公衆衛生関係者が、SDGsの観点から、国内の保健課題を今一度見直し、さらには地球規模の保健課題の改善にどのように貢献できるかを考える契機としていただければ幸いである。